

### 1. 教育の責任

学科の基礎科目で、必須の科目であると同時に、学生の養成においても学科のコース共通の重要な基本科目である。この科目の位置づけとしても情報処理能力獲得のために置かれている。情報ツールの活用が不可欠な状況の中で、学生の汎用的な知識として必要不可欠である。それゆえに能力を身につけ送り出すことが責務であると考ええる。

### 2. 教育の実施における理念

複数の教員で各コースごとに実施されているため、目標や習得する内容をある一定以上のレベルに揃える工夫が必要と考える。

学生のレベルは、入学前までの習得状況によって大きく左右されるため、能力や技能の設定において難しい所がある。留学生の場合は、日本語の入力などにおいても困難な場合があり大きな差が開いている。

### 3. 教育の方法

1 年生の科目であり、さらに必須である。情報リテラシーⅠと同様、入学前までの能力の差を埋めながらも、一定の水準に達するようにするためにタイピングや基本の編集技術などを習得しながら、さらに様々な活用能力を身につけることを目標としている。

また、レポートなどの提出においても必須の技術である。スマホは得意でも PC のタイピング技術が低いケースもあり今後も課題の 1 つであると言える。

### 4. 教育の成果

学習成果はある一程度達成できていると考えられる。授業評価は、韓国語文化、グローバル共生 IT、司書アーカイブズの 3 つのコースの結果である。

韓国語文化コース

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5  |
|---|---|---|---|----|
|   |   | 1 | 2 | 11 |

グローバル共生 IT／司書アーカイブズ

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|
|   |   | 1 | 5 | 7 |

あくまでも満足度レベルでの結果であるので、ルーブリックなどの評価観点との関係で評価する必要があるが現時点では、共通のそのような評価観点は検討されていないため実施していない。これらの評価は、身についたかどうかの評価ではなく授業を受けて満足したかどうかではあるが学習にとっての大きな要素でもあるので一つの指標として用いることとした。

### 5. 教育の目標

この授業での評価を通じワードやエクセル、パワーポイントの基本アプリの技術を身につけ、様々な課題を処理する力を身につけるためには、この練習だけでは達成できない。これを活用して実地的な課題解決や他の科目への効果的な利用を意識した練習のためには、個々人のレベルの差などを考えると難しいと同時に、レベルの高い学生にとっては有意義にも思われる。この授業は、練習がまず何より大切であるが、操作だけの練習だけではなく様々な科目での活用によって身につけているものだと考えている。

この科目の「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」は、コンピュータの操作やアプリケーションの操作が中心であり、高度化していく機能の習得にも多くの時間がかかる。実務的な問題に取り組むことや他の関連する科目を通じてスキルを高めていくこともあるのでよりそのことを意識した内容としたい。